様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３７０６３７

研究課題名（和文）CALPの育成を意識したCAN-DOストラテジーリストの策定と実践

研究課題名（英文）CAN-DO Strategy List for the Purpose of Development of CALP

研究代表者
尾関　直子（OZEKI, NAOKO）

明治大学・国際日本学部・専任教授

研究者番号：００２５９３１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：平成23年度に文科省が発表した『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』では，各中学・高校において，学習の到達目標をCAN-DOを制定することを求めている。このような政策は歓迎されるべきだが，課題も残されている。CEFRでは，教育領域に係るCAN-DOリストが圧倒的に少ない。また，B1以下のレベルにおいて，CALPの育成に関連した言語活動が乏しい。そこで，本研究では，B1以下のレベルのCALPを育成するCAN-DOリストを作成した。また，これまでの研究に欠けていた学習ストラテジーの視点を取り入れ，そのそれぞれのレベルに到達するのを助ける学習ストラテジーリストを作成した

研究成果の概要（英文）：In 2011, the Ministry of Education announced a new policy, the Five Proposals and Specific Measures for Developing Proficiency in English. It requires high schools to set the attainment goals in the form of a CAN-DO list. While this policy should be welcomed, there are some problems. The number of descriptors are limited in the educational domain. In particular, there are few descriptors that develop CALP in the bands below B1. In this study, a CAN-DO list was created to develop CALP at the levels of A1, A2, and B1. The validity of the descriptors was verified by a matching exercise. Next, strategies that help accomplish the task were added to the revised CAN-DO list. And the Strategy CAN-DO list was prepared. In 2019, lesson plans based on the Strategy CAN-DO list were prepared. CEFR focuses on five skills such as spoken interaction, spoken production, listening, reading, and writing. Therefore, the lesson plans were designed to develop these five skills at the levels below B1.

研究分野：応用言語学

キーワード：CAN-DO list　CALP　CEFR　learning strategies

１．研究開始当初の背景

平成 23 年度に発表された『国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策』（文部科学省）では，生徒に求められる英語力について，その達成状況を把握・検証することを提言し，各中学校・高校において，学習の到達目標を CAN-DO リストの形で設定することを求めている。中・高・大学生が身につけるべき英語運用能力の到達目標を調査・研究し，それぞれの学習修了段階（卒業時）までに求められる具体的な教育目標とその到達度を評価する基準を設定することは，学習目標の明確化，ならびに教員間や教員と学生間における学習目標の共有化といった観点からも必要不可欠だと考えられる。近年，このような問題意識を反映した取り組みが，国内の高校・大学で徐々に増えつつある。なかでも，ヨーロッパで開発された CEFR を基盤とし，その基準に準拠した到達目標の設定，並びに指導を行っている高校・大学が数多く見られる。例えば，高校では福岡県立香住丘高等学校，神戸市立葺合高等学校，岩手県立福岡高等学校など，大学では，茨城大学，東京外国語大学などで，CEFR に基づいたカリキュラムの作成や到達目標の設定が行われている。

このような取り組みは歓迎すべき一方，いくつかの課題が残されている。第 1 に，CEFR では，私的，公的，職業，教育の 4 つの領域を想定し，その領域で使われる言語活動を考え，CAN-DO リストを作成しているが，教育領域に係る CAN-DO リストが他の 3 つの領域に比べて圧倒的に少ないことから，CEFR の CAN-DO リストを学校教育に取り入れにくくなっている。特に，6 つあるレベルの中の下位に位置する 3 つのレベル，A1，A2，B1 レベルではパラグラフ・ライティングや短いレポートなどのライティング活動はほとんど見られない。また，リーディングにおいても，内容を要約する，文章全体の構成を考えるなどの活動はほとんど見られない。つまり，CEFR では，B1 以下のレベルにおいて，学校の授業でよく行われる CALP（Cognitive Academic Language Proficiency，認知学術言語能力）の育成に関連した言語活動が乏しい（Little, 2012）ということになる。

第 2 に，CEFR や類似した枠組みを基盤とした取り組みには，学習ストラテジーの視点（特定の到達目標を達成するためには，どのような学習方法が必要なのか）がほとんど取り入れられていないことがある。到達目標に辿り着くためには各目標に応じた技能が求められる。従って，適切な到達目標の設定とともに，その達成を支援する学習ストラテジーを特定し，授業に効果的に統合していくことは，充実した英語カリキュラムの構築には欠かせない。さらに，CEFR には，自分の習熟度のレベルを確認し，目標のレベルを定め，学習過程を内省し，学習を評価することができる学習者，つまりメタ認知ストラテジーを適切に使うことができる自律した学習者を育てるという理念がある。従って，学習ストラテジー指導の統合は必須だと考える。

第 3 に，現在，多くの中学や高校では，具体的な到達度を設定し，教育効果を評価するために CAN-DO リストを作成しているが，その CAN-DO リストを使い，どのような指導を行うのかについては，文部科学省の「CAN-DO リスト作成の手引き」に，指導案が一つ掲載されているのみで，具体的には書かれていない。言語を用いて何ができるかを描写した CAN-DO ディスクリプターを年間指導

目標や単元の目標にした場合，教師は教科書を使用しながら action-oriented の言語活動を行わなくてはいけない。しかし，そのような言語活動をデザインするには，参考となる言語活動が多数必要である。

２．研究の目的

上記の背景を鑑み，本研究では，以下を目的とした。

（A）現在の CEFR にはない，A1，A2，B1 レベルにおいて CALP(認知学術能力）を育てるためのディスリプターを検討し，それらを取り入れた CAN-DO リストを作成する。新しく取り入れたディスクリプターについては，その妥当性を検証する。

（B）（A）でできた CAN-DO リストにある言語活動を支援する学習ストラテジーを組み入れた CAN-DO ストラテジーリストを作成する。このリストには，言語を使って何ができるかというディスクリプターとともに，そのディスクリプターが示す言語活動を支援する学習ストラテジーを組み入れ，CAN-DO ストラテジーリストを策定する。

（C）策定した CAN-DO ストラテジーリストに基づいた，授業で行う指導例を開発する。CEFR には，インタラクション，スピーキング，リスニング，リーディング，ライティングという 5 つのスキルがあるが，それぞれにおいて教室内で実行可能な指導例を作成する。

３．研究の方法

（１）CALP を育てる CAN-DO リストの作成

リーディング，ライティングに関する専門書及び論文，また，European Language Portfolio などを参考に，習熟度の低いレベルの学生の CALP を育てるのに必要なディスクリプターを選定し，暫定版 CAN-DO リストを作成した。

次に，新しく作成したディスクリプターの精微化を行うため，教員によるディスクリプターの並び替え調査（尾関，2013）を実施した。調査では，リーディング，ライティングのスキルで新しく作った A1，A2，B1（それぞれのレベルでさらに，上のレベルと下のレベルに分かれる）のディスクリプターをそれぞれの紙に書いてもらった。教師にレベルが低いと思われるディスクリプターから高いと思われるディスクリプターに並べ替えてもらった。

教師による並べ替え調査の結果，レベルを間違える教師が多かったディスクリプターについては，再度レベルを調節して，暫定版 CAN-DO リストを作成した。

（２）学習ストラテジーを伴った CAN-DO リストの策定

既存の学習ストラテジーリストを参考に，ディスクリプターにある言語活動を支援する学習ストラテジーを選定した。選定した学習ストラテジーを CAN-DO リストに下に組み入れ，教員にアンケート形式で，CAN-DO リストにある言語活動を行うには，どういった学習ストラテジーが必要だと認識しているか調査した併せて，自由記述による追加ストラテジーの候補も収集した。

教員の自由記述に基づきストラテジー項目を追加したアンケートを，学生に対して実施した。

教員と学生に行ったアンケート結果を以下の 3 つの観点から検討し，各ディスクリプターの言語活動を支援するストラテジーの追加，修正，統合を行った。①多くの教員が「必要である」と判断するストラテジー，②同様に，多くの学生が「必要である」と判断するストラテジ

ー，③学生が現時点で「利用できない」と判断するストラテジー，の 3 つは，重点的に指導する必要があるため重要とした。

以上のプロセスを経ることにより，CAN-DO ストラテジーリストを作成した。

３．研究成果

CALP を育てる B1 レベル以下のディスクリプターを完成させた。また，ディスクリプターのタスクを助ける学習ストラテジーを選び，CAN-DO ストラテジーリストを作成した。また，そのリストに準拠したタスクを開発した。タスクを開発するにあたっては，タスクの基本である意味に焦点を置き，できるだけインタラクションがあり，学習者がタスクを遂行するにあたり，自由に言語を選ぶことができる言語活動を考えた。

５．主な発表論文等
（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5　件）

(1) 尾関直子，小・中・高等学校における学習評価を考える，英語情報，査読有，21 巻 1 号，2018，4-9
(2) Naoko Ozeki，Autonomous communicators who live in the 21st century, *Bulletin of National Federation of the Prefectural English Teachers' Organizations*, 査読有 65, 2016, 215-233
(3) 尾関直子，話すこととパフォーマンス評価, 英語情報, 査読有, 18 巻 4 号, 2015, 16-17
(4) 尾関直子，CAN-DO リストとタスクを取り入れた指導法，英語情報，査読有，18 巻 3 号，2015，16-17
(5) 尾関直子，新学習指導要領と CAN-DO リスト，英語情報，査読有，18 巻 2 号，2015，18-19

〔学会発表〕（計　22　件）

(1) 尾関直子，CAN-DO リストとパフォーマンス評価，広島県教育委員会指導力向上研修会，2017
(2) 尾関直子，Task-Based Instruction and Performance Evaluation，山梨県教育委員会教員研修，2017
(3) Naoko Ozeki, National Trends in Language Education, 2017JALT Pan SIG Conference, 2017
(4) 尾関直子, CAN-DO リストに基づいた指導とパフォーマンス評価(東京)，British Council CAN-DO セミナー，2017
(5) 尾関直子, CAN-DO リストに基づいた指導とパフォーマンス評価(大阪)，British Council CAN-DO セミナー，2017
(6) 尾関直子，CAN-DO リストと言語活動，福島県教育委員会，2016
(7) Naoko Ozeki，CAN-DO List and Performance Evaluation，滋賀県教育委員会，2016
(8) 尾関直子，Designing English Lessons，山梨県教育委員会，2016
(9) 尾関直子，自律した学習者を育てる英語の授業～CAN-DO リストを踏まえた 授業～，高知県教育委員会，2016
(10) 尾関直子，タスク活動とパフォーマンス評価，埼玉県入間地区中高教育連絡協議会総会，2016
(11) 尾関直子，CAN-DO リストを基とした授業改善，福島県教育委員会英語指導力向上事業に係る「CAN-DO リスト指導評価改善研修」，2016
(12) 尾関直子，タスクを取り入れた授業とパフォーマンス評価，福島県教育委員会英語指導力向上事業に係る「CAN-DO リスト指導評価改善研修」，2015
(13) 尾関直子，多様な学習成果の評価手法に関する調査研究，愛知県教育センター，2015
(14) 尾関直子, CAN-DO リストとタスク活動，宮城県教育委員会，2015
(15) 尾関直子，Designing English Classes，山梨県教育委員会，2015
(16) 尾関直子，Task-Based Instruction and Performance Evaluation，京都市教育委員会，2015
(17) 尾関直子，CAN-DO リストを基にした授業改善，福島県教育委員会　英語指導力向上事業に係る「CAN-DO リスト指導評価改善研修」，2015
(18) 尾関直子，Task-Based Instruction and Performance Evaluation，三河地区第 3 回授業力向上研修，2015
(19) 尾関直子，タスクを取り入れた指導とパフォーマンス評価，第 3 回尾張地区授業力向上研修，2015
(20) 尾関直子，CANーDO リストと授業設計，新潟県教育委員会，2015
(21) 尾関直子,「CAN-DO リスト」の形式による学習到達目標の設定，静岡県教育委員会，2015
(22) 尾関直子，学習評価と CAN-DO リストの形での学習到達目標設定について，京都市教育委員会，2014

６．研究組織
(1)研究代表者
尾関　直子　（NAOKO OZEKI）

研究者番号：00259318